

# 社会福祉法人 同和園 令和元年度事業報告書

## 【 総括 】

人員不足であっても必要なケアの実践ができるよう、施設内・事業所間の連携を強化するとともに、外部委託を含めた業務の細分化を意識した取り組みを実践することができた。

施設部門におけるガバナンス強化に向けた取り組みとして、担当介護課長制を設け、介護現場の課題に対してスムーズな対応を心がけた。

本部機能として会計監査人を導入し、会計基準に準拠した会計処理を行い、法人運営のガバナンスの向上に努めた。

泉寮3階の従来型多床室をプライバシーに配慮した設えに改修することができた。

人員不足のため稼働していない特別養護老人ホームのユニット（32名分）について、定員減床の手続きを行い、6月より定員を304名から272名に変更した。

## 【 重点目標の個別評価 】

### 1. 職員採用と働きやすい職場環境の整備

沖縄県をはじめ京都市近郊以外における採用活動を積極的に行うことにより、2020年度当初において、中途採用を含め15名を採用することができた。外国人技能実習生の受入体制を構築し、中国から5名の技能実習生を受け入れることができた。

施設の介護業務における間接的な業務(シーツ交換)を外部委託することで、介護職員の人員不足を補完することに繋がった。引き続き施設部門において積極的に介護職員の採用に努め、休止ユニットの再開に向けて取り組んでいく必要がある。

職場環境の整備について、外部の相談・カウンセリング機関と提携することで、職員のハラスメント相談、メンタルヘルス相談機能の向上を図ることができた。

### 2. 職員教育の充実とガバナンス体制の構築

施設部門において12月より担当介護課長を設け、介護職員の円滑なマネジメントができるよう体制強化を図り、現在不在となっているフロア主任の配置に向けて引き続き準備を進めていく。

介護過程を集中的に学ぶ研修会を実施し、教育体制の強化に取り組んだが、研修の在り方について更なる検討が必要である。

### 3. ケアサービスの質の向上

在宅部門においては、在宅生活の継続と自立支援を意識したケアの実践に努めた。また、災害時の要配慮者への対応策について協議を進めることができた。

施設部門においては、活動の質、量の低下を防ぎ生活機能の維持・向上を図るため、多職種が専門性を発揮してケアの実践に取り組んだ。

### 4. 24時間365日型在宅支援事業の強化

訪問系サービスにおいては、家族や事業所と連携を強化する中で、訪問日以外にも安心して過ごせる取り組みを実践することができた。また、新たなアセスメントシートを活用し課題整理につなげることができた。

### 5. 同和園応援団の募集活動の充実

同和園応援団としての具体的な活動の実施に向けて、引き続き積極的な働きかけを通じて財政基盤の強化を図っていく必要がある。

### 6. 100周年に向けた取り組みの推進

100年委員会において、100周年記念誌作成を継続するとともに、記念事業の具体化に向けて議論を進めた。

## 【 施設部 】

### 特別養護老人ホーム

1. 入居者自身と職員が目標を明確にしてインフォームド・コオペレーションを実行し、日常の暮らしや生活場面での過ごしについて自己決定を尊重出来るよう、複数の選択肢を多職種が協働し提案する体制を意識し、その人らしい生活を考えていく事ができた。
2. 入居者の生きることの全体像をしっかりと見据え「参加」の向上に向け、その具体像の「活動」の向上を図り、生活行為全体のアセスメントを行う事で入居者の状態像を把握し、活動の質量共に低下を防げるよう実践的な介護の確立に取り組んだ。
3. 自立支援を実践するために、職員ファーストとして職員の職業倫理向上も含めた「教育」に力を入れ、個人の尊厳を守り実践する介護過程を集中的に学ぶことで、介護に携わる職員が自信を持って臨める教育環境を整える事に取り組んだ。
4. 自立支援の実践のため多職種が協働し、目標立案と役割分担を担い専門性を発揮することで、入居者の生活がより豊かなものになるよう取り組ん

だ。

5. 入居者を正確に把握するために生活行為ごとに観察し、活動を高める働きかけを多職種が協働して工夫しながら取り組んだ。

・介護度の分布（特別養護老人ホーム）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均
平成 31 年 3 月末	0	0	82	102	83	267	4.0
令和 2 年 3 月末	0	0	78	105	68	251	3.9
対 比	0	0	4	3	15	16	0.1

・退去者・新規入居者の介護度の分布（特別養護老人ホーム）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均
新 規			6	13	5	24	3.95
退 所			10	10	20	40	4.25
内、園内にて死亡 （看取り加算）			8 (4)	8 (8)	17 (16)	33 (28)	
内、園外にて死亡 （看取り加算）			1	2	1	4	
内、療養型等の病 院へ転寮（退居）			1		1	2	
内、在宅復帰					1	1	

・稼働率・延べ人員（特別養護老人ホーム）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
定員	304	304	272	272	272	272	272	272	272	272	272	272	3328	-
利用人数	258	253	252	251	246	246	245	242	241	240	237	239	2950	246
延人数	7743	7834	7564	7766	7633	7393	7608	7265	7485	7428	6874	7404	89997	7500
稼働率	84.9	83.1	92.7	92.1	90.5	90.6	90.2	89.0	88.8	88.1	87.1	87.8		88.8
304 名 稼働率	84.9	83.1	82.9	82.4	81.0	81.1	80.7	79.7	79.4	78.8	78.0	78.6		80.9

平成 30 年度延利用人数 103,654 名

令和元年度延利用人数 89,997 名 前年比 13,657 名

平成 30 年度平均稼働率 93.7%

令和元年度平均稼働率	80.9% (定員 304 名)	前年比	12.8%
	88.8% (定員 272 名)	前年比	4.9%

## 養護老人ホーム

1. 入居者の現在の「活動」を適切に把握し、評価を行い、入居者一人ひとりの「その人ならではの参加」に向けた支援を行い、その「活動」を見極めながら、それぞれの生活の場面において、環境整備や精神的支援を行った。
2. 入居者が力を発揮できるように、入居者の自己決定を尊重し、共同して目標の決定をした上で、活動のレパートリーとバラエティを増やす援助を行い、入居者が持っている力を最大限発揮できる場の提供に取り組み、園内の特別養護老人ホームにおけるボランティア活動を継続される方、また新規に参加される方を支援した。
3. 養護老人ホームで生活する上において、予後予測を確実にを行い、認知症・骨折などの生活機能低下が起きない様に努め、また、介護が必要な方に、一般型特定施設の制度を利用して、介護保険サービスを提供した。
4. 適正な生活環境が整うよう福祉用具（歩行器・ガイドバー・車椅子等）の支援について骨折後などの体調の変化に対応し、リハビリ職はじめ福祉関連業者と連携することができた。
5. 適切な栄養管理に向けて栄養スクリーニングを行い、他職種と協働し、食事摂取量を記録し、食事量・栄養状態を適切に把握できた。
6. 入院した場合、退院後において入院前の生活にスムーズに移行できるように、生活相談員を中心に、病院と密接な連携を図った。
7. 介護予防の一環として「いきいき YOUGO 塾」の運営を継続し、リハビリ室と協働し健脚度テストを行うとともに、楽しみながら行えるお散歩ラリーを年2回実施することにより、園内の広さを実感し今後の自己活動の場として参考にすることができた。  
この取組を踏まえ、個別の評価を基に入居者の生活の質の向上を図ることができた。
8. お御堂における朝のお参りに週2回以上参加することにより、活動量を増やすことにつながった。
9. 養護老人ホームにおける「暮し環境支援委員会」を継続し、介護職員が中心となり、入居者の生活環境の整備に向けて取り組んだ。
10. 入居者が認知症の理解を深め共に支え合えるよう、養護オレンジカフェの月1度の活動の継続と学習会を定期的を開催し、作物を育てることで水やりが日課となり、また収穫物で料理を作るなど身体活動の活発化につながった。

・入居者の異動状況（養護老人ホーム 一般型特定施設含む）

	養護老人ホーム
定員	90
退所者	17
内、園内にて死亡	6
内、園外にて死亡	6
内、特養へ転寮	1
内、療養型へ転寮	3
内、在宅復帰	1
新規入居者	17
延べ人数	31773

・延べ人員・月契約人数（養護老人ホーム一般型特定施設）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
契約人数	45	47	45	43	44	43	45	46	48	48	46	46	546	45.5
延人数	1309	1427	1288	1242	1339	1271	1357	1336	1461	1468	1303	1373	16174	1348
利用人数	43.6	46.0	42.9	40.1	43.2	42.4	43.8	44.5	47.1	47.4	44.9	44.3	530.2	44.2

## 同和園ショートステイ

- 1．入退所時及び利用期間中の状態観察を多職種間で申し送り引き継ぐことで状態変化に適応したケアを提供できた。
- 2．専門職による定期的なリハビリ活動の機会を持ち、利用者の身体機能の維持、向上に努めた。
- 3．緊急時の対応を含め、介護者の介護負担軽減に繋がるよう空床活用を積極的に行った。
- 4．自宅に戻られても安心して生活を継続できるようご家族や関係機関との連携に努め、詳細に状況報告を行った。
- 5．介護クランクを配置し、入退去時の管理体制の強化を図り、利用者の大切な持参品を生活上で不便なく使用いただける状態を保つことができた。
- 6．ご希望に合わせた個別の取扱いについて、関係職種で情報共有を徹底する中で対応した。

### 事業実績（短期入所利用状況）定員 24 名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
実人員	61	66	70	63	68	68	67	64	69	68	67	68	799	67
延べ人数	477	493	539	593	580	566	562	520	549	576	561	606	6622	552
平均人数	15.9	16.0	18.0	19.2	18.8	18.9	18.2	17.4	17.8	18.4	18.0	19.5	216.1	18.1
稼働率	66.3	66.3	74.9	79.7	78.0	78.6	75.5	72.2	73.8	77.4	80.6	81.5		75.4

### ソーシャルワーカー室

1. 新規面接時、終末期の本人意向の重要性について発信し、入居以前から終末期について考えていただく場の設定に努めた。
2. 入居者の生活場面にご家族が共同で関わりが持てるよう参加しやすい場を意識し、レクリエーションの開催など共同で参加していただける場の提供に努めた。
3. 各行事の参加の意義を見直し、入居者の参加意欲の向上に繋がる場の提供に向けて、移動動物園による出張型の園内レクリエーションの開催など、入居者の多くが参加し楽しめる新たな行事に取り組むことができた。
4. 地域貢献の一貫として、「京都市高齢者すまい・生活支援事業」に継続して取り組み、新規利用者の住宅確保及び見守り支援、継続利用者の見守り支援を行うことができた。
5. 適切な支援が出来るよう基本となる業務マニュアルの見直しを行い再構築を行った。また、支援体制を構築するにあたり、ソーシャルワーカー室における相談体制の強化を図った。

### 医務室

1. 看護師個々の対応差、情報量の差を踏まえ、疾病コントロールや予防的看護を行うためによりチームを意識したアセスメントや対応を行うことができた。
2. 入居者を支えるチームの一員である意識を持ち、医療職としての専門性を発揮しつつ、多職種における連携の中で情報共有を図ることができた。
3. 日々進歩する医療に対応するため、専門的技術、知識の向上が必要であり、学ぶ姿勢を持ち情報収集に努めた。
4. 常にヒヤリハットや事故の発生を意識し、リスクマネジメントを心がける中で業務を行った。

## 給食

- 1 . 個別の「食」の充実に向けて、施設入居者やサービス利用者に対し定期的に嗜好調査を行い、入居者や利用者の好みを把握し反映できるよう、栄養管理、体調管理のための療養食や特別食が適切に提供できるよう、各部署と連携し情報の共有を図ることができた
- 2 . 職員体制の確保が難しい中で効率的な業務運営を行うために、厨房内業務分掌を再確認し、体制の整理、再編成を進めた。
- 3 . クックチル方式や真空調理方式など、試行的に取り組んでいる新調理システムによる食事の提供の運用はできなかったが、職員確保を含め体制の整備に向けて検討することができた。
- 4 . 地域の高齢者に対する配食サービスの提供、地域に向けた「介護料理教室」の開催など、施設給食の機能を地域に活用できる場を作るとともに、施設給食を知っていただける場を作ることができた。

## リハビリ室

### 【施設関連】

- 1 . 個々の入居者に合った目標設定を行い、リハビリ職のもつ専門性を発揮し目標達成に向けた関わりを行ったが、全ての入居者の目標を達成するところまでは実現できなかった。
- 2 . より質の高いリハビリテーションを提供するために、医務室を中心とした多職種との連携を強化することにより組織全体として取り組んだ。
- 3 . 入居者の食の安全に寄与するため摂食嚥下専門職の配置はできなかったが、言語聴覚士の配置が決まり、「食」を通した取り組みを進めていく体制が整った。
- 4 . 集団体操、集団リハビリについて通年提供することができたが、個々のユニット・フロアの特性に合わせた集団活動の提供にまでは至らなかった。
- 5 . 個別機能訓練加算を4月から8月の5か月間について、100%算定を行うことができた。

### 【在宅・地域関連】

- 1 . 在宅部門との連携を強化し、機能訓練指導員としての知識や技術の伝達、共有ができる活動を行い、本部デイサービスとの連携を強化することができた。
- 2 . 在宅訪問を強化したことで、より機能訓練指導員としての役割を担うことができた。

3. 京都市介護予防推進モデル事業に協力し、東山区の自主活動グループに対して、フレイル対策の運動分野についての指導を行うなど地域貢献活動を行うことができた。

## 【 在宅部 】

### 同和園デイサービスセンター

1. 適正な人員配置及び短期入所との連携  
入浴特化型デイサービス事業を中止し、一般型デイサービスに人員配置の集中化を行うことで、ケア内容の充実に応える事ができた。特に認知症ケアの実践では過ごしの時間を工夫し、個別ケアの強化を図る事ができた。また短期入所と実践しているケア内容の共有化を進め、連続性のあるケアに繋がった。
2. 新たな活動の場の提供  
利用者の求めているレクリエーションや機能訓練の活動を日常的に実践することで、利用者間の交流や心身機能の向上を図ることができた。
3. 安定した事業運営  
経費支出を抑制できるものは必要最低限なものとし、食材料費について利用者の生活圏域にある事業所相場を元に価格改定を行い、「食」の品質・安全性・経済性の向上に取り組んだ。
4. 地域福祉の推進  
個々の事業役割を理解しサービス提供に反映することで、利用者に途切れなく支援を提供することができた。また利用状況の報告を通じ、事業所の特徴的な取り組みを他事業所へ広報するなど事業所特性を連結したものとなるよう努めた。

#### 事業実績 同和園デイサービス《竹》定員 65 名 休止中《かぐや》定員 30 名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	29	28	29	31	361
最大利用可能人数	1950	2015	1950	2015	2015	1950	2015	1950	1885	1820	1885	2015	23465
延 利 用 人数	1788	1835	1678	1779	1631	1605	1595	1500	1394	1343	1347	1447	18942
一月当たり実人員	221	212	206	204	193	195	196	189	187	182	179	177	2341



一日当たり 利用人数	60	59	56	57	53	54	51	50	48	48	46	47	52
稼働率	91.7	91.1	86.1	88.3	80.9	82.3	79.2	76.9	74.0	73.8	71.5	71.8	80.7

合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均  
平成 30 年度平均稼働率 80.1%

## 西野の家「はなさんち」認知症対応型通所介護事業所

### 1. ケアの実践

定期的に勉強会を開催し、認知症を学ぶ機会や事例検討を行うことでケアに繋げ、日々のミーティングで評価を行い症状に柔軟に対応することができた。調理ケアやレクリエーションの目的を再確認したことで、生活場面を意識したケアが実施できた。

### 2. 地域ネットワークの形成

地域活動や会議に積極的に参加することができた。

他法人と協働して行うオレンジセミナーなど新たな活動も実施でき、地域の方の参加場面を設けることができ、地域と事業所間のネットワークの強化に繋がった。

### 3. 家族支援

家族交流会を開催し、以前利用されていたご家族にも参加いただき、体験談等話していただくなど、ご家族同士の交流の場とすることができた。

また個々の家族ニーズに応じた対応となるよう、関係事業所と連携して取り組んだ。

### 4. 適正な運営

事務作業の改善を行ったことで、より効率的に業務を行うことができた。

認知症対応型通所介護の特色について周知を図ったことにより定期的に新規利用者の申し込みがあり年間を通じて安定した稼働率を維持することができた。

## 事業実績（定員 12名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	25	26	309
最大利用 可能人数	312	324	300	324	324	300	324	312	288	288	300	312	3708
延利用人 数	282	300	278	289	302	265	294	284	262	259	254	279	3348

一月当たり実人員	32	31	32	32	32	30	32	32	31	30	30	33	377
一日当たり利用人数	10.8	11.1	11.1	10.7	11.2	10.6	10.9	10.9	10.9	10.5	9.9	10.7	10.8
稼働率	90.4	92.6	92.7	89.2	93.2	88.3	90.7	91.0	91.0	89.9	84.7	89.4	90.3

合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均  
平成 30 年度平均稼働率 88.1%

## 日野の家「げんさんち」通所介護事業所

### 1. 在宅生活を意識したケアの実践

多様なプログラムを通して、利用者が役割を持ち、やりがいを持って活動することができるよう支援することができた。

新型コロナウイルス感染症予防のため、利用者の理解を得る中で活動自粛を行った。

### 2. 認知症ケアの充実

利用者の状態を日々のミーティングで検討し、ケアの充実に繋げることができた。

事例検討を通して、今後の実践に向けて認知症をお持ちの利用者に対するケアの確認ができた。

### 3. 介護者支援・他事業所との連携

介護者懇談会を開催し、自宅での困りごとやニーズを聞く機会を持ち、今後のケアの充実に向け家族と交流することができた。

関係機関と情報を共有し、利用者支援に活かすことができた。

### 4. 地域との関わり

「ひのぼっこ」と協力し、自治会や保育園の行事など地域活動に参加することができ、利用者の活躍の機会を作ることができた。

地域の消防活動に参加することができ、地域の災害拠点として意識することができた。

### 5. 適正な運営

収支を意識し事業運営に取り組んだが、年度目標とした稼働率 90%を若干下回る 87.9%となった。

## 事業実績（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	25	26	309

最大利用 可能人数	650	675	625	675	675	625	675	650	600	600	625	650	7725
延利用人数	545	580	551	578	553	542	594	603	552	534	565	591	6788
一月当たり 実人員	74	75	77	79	76	77	79	79	85	80	79	79	939
一日当たり 利用人数	21.0	21.5	22.0	21.4	20.5	21.7	22.0	23.2	23.0	22.3	22.6	22.7	22.0
稼働率	83.8	85.9	88.2	85.6	81.9	86.7	88.0	92.8	92.0	89.0	90.4	90.9	87.9

合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均  
平成 30 年度平均稼働率 89.2%

## 京都市百々老人デイサービスセンター

### 1. 「適切な介護」の実践

利用者の活動（能力）の向上のための話し合いを重ね、ケアの実践に繋ぐことができた。

フロアリーダー制の導入により、情報を集中し、利用者の変化の共有、適切なケアの実践を行った。

本人のできる能力を意識し、デイで一定の役割を持って過ごしていただくことができています。

個々の自宅での生活を意識した目標を設定し、活動のレポーターを増やせるよう取り組んだ。

### 2. 介護者の負担軽減

利用者の心身状況、能力等、気づいたことを伝え、介護者の負担が軽減されるようアドバイスを行った。

介護者のニーズを把握する機会である介護者懇談会や満足度調査を実施できなかったが、介護者の介護力の状況を把握し、担当介護支援専門員や関係事業所との連携を図った。

### 3. 地域支援

百々学区の介護、医療に関わる地域の課題を把握するため、地域の関係団体や実務者の会議に参加した。

認知症の当事者の把握、介護者支援に繋がるよう、定期的に認知症カフェを開催することができた。

百々学区で開催される地域のイベントや百々小学校の行事に参加し、地域団体等と交流を深め、「人」「場所」「専門性」を活かした地域支援に取り組

めた。

#### 4. 支援者の専門性のスキル向上

トランスファー研修、認知症研修等の定期的な勉強会の機会を作ることができ、学びを深めていく中で、利用者の潜在能力を活かしていくことに繋がった。

認知機能の低下が著しい人や重度の身体介護を必要とする人のケアを確立するため、専門職としての倫理観を土台として技術や知識を活かすための実践的な研修の確立に取り組んだ。

#### 5. 稼働率の安定

他事業所デイにおいて受け入れることが難しい新規利用者等を積極的に受け入れた。

定員 25 名の受け入れを可能とする安定的な職員体制、スキルアップを目指すとともに広報に努めたが、約 16.4 名、稼働率 65.5%となった。

### 事業実績（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	25	26	309
最大利用可能人数	650	675	625	675	675	625	675	650	600	600	625	650	7725
延利用人数	424	384	384	426	415	388	456	458	416	401	433	475	5060
一月当たり実人員	50	48	50	53	53	59	59	62	60	58	53	59	664
一日当たり利用人数	16.3	14.2	15.4	15.8	15.4	15.5	16.9	17.6	17.3	16.7	17.3	18.3	16.4
稼働率	65.2	56.9	61.4	63.1	61.5	62.1	67.6	70.5	69.3	66.8	69.5	73.1	65.5

合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

平成 30 年度平均稼働率 62.5%

## 同和園ホームヘルプステーション

（介護保険事業、日常生活総合支援事業）

### 1. 営業時間（訪問時間）拡大による支援

営業時間を延長し訪問活動時間の拡大に向けて、利用者のニーズ調査等の実施を検討した。

## 2. 本人らしい生活を支える介護の実践

自宅での生活状況から、現在、利用者が行っている活動の把握に努め、チームで共有し連携して支援を実施した。

生活機能維持向上のため、ヘルパーが得た情報や課題をチームで共有し、自立支援に向けた取り組みの一環として、利用者と家事の共同支援を実践した。

## 3. ご家族・他職種との連携

担当介護支援専門員や他のサービス提供事業所と密接に連携を図ることを意識し、ご家族の状況や意向について積極的に把握することに努めた。

## 4. 支援者の知識・技術の向上

支援を実施する上で把握すべき制度について、研修を通じ学ぶ機会を設けるとともに、様々な角度から専門性を高める研修を月に1度定期に開催することができた。

### 事業実績（介護保険法：訪問介護）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用人数	590	537	499	540	386	400	433	492	515	452	472	530	5846	487.2
一月当たり利用人員	48	44	42	43	39	42	47	48	53	51	52	55	564	47
一日当たり利用人数	19.7	17.3	16.6	17.4	12.5	13.3	14.0	16.4	16.6	14.6	16.3	17.1	-	16.0

平成30年度 月平均延べ利用人数 384.9名

### 事業実績（総合支援事業：介護型ヘルプサービス、生活支援型サービス） 介護型ヘルプサービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用人数	64	57	54	65	48	51	58	55	50	58	62	79	701	58.4
一月当たり利用人員	12	12	12	12	11	11	11	12	11	13	13	16	146	12.2
一日当たり利用人数	2.1	1.8	1.8	2.1	1.5	1.7	1.9	1.8	1.6	1.9	2.1	2.5	-	1.9

平成30年度 月平均延べ利用人数 60.2名

## 生活支援型サービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用 人数	8	8	7	8	7	13	16	25	39	37	42	47	257	21.4
一月当たり 利用人員	2	2	2	2	2	3	4	7	9	9	10	11	63	5.3

平成 30 年度 月平均延べ利用人数 6.9 名

( 支え合い型サービス、地域貢献事業 )

### 井戸端ステーション

#### 1. 多様なニーズへのサービス提供

北醍醐まちかどステーションにおいて「まちかどサロン」「井戸端サロン」を定期的に開催することができた。

「まちかどサロン」と買い物ニーズを組み合わせた、利用希望者に対する「買物バス」を運行することができた。

季節の食材を使用した食事を提供するとともに、酒を楽しむことのできる場としての立寄処「いどばた」を継続して実施することができた。

支え合い型サービスについて、地域包括支援センターと連携して利用ニーズの調査を行い、サービスの必要な方へ支援を行うことができた。

#### 2. 支え合い型サービスの担い手の育成

京都市支え合いサービス事業の担い手養成に対する講師派遣、担い手活動の広報、担い手確保の為の研修の企画など、積極的に協力することができた。

#### 3. 社会参加と地域における支え合いの取組み

サロンや食事会の定期開催、地域行事への参加を通じ、生きがいを持った生活の継続、社会的役割を持つ機会の提供など、介護予防に繋がる地域における支え合いの取組みを実施することができた。

## 事業実績 (総合支援事業：支え合い型サービス)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用 人数	14	17	16	17	17	15	18	21	19	19	19	21	213	17.8
一月当たり 利用人員	3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	52	4.3

平成 30 年度 月平均延べ利用人数 9.0 名

## 同和園訪問看護ステーション

1. 利用者の健康の維持向上のため体調管理・医療ケア  
 身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な背景を情報共有し、健康状態の管理・病状の経過や日常生活に対するアドバイス、不安の軽減のための傾聴などを行った。  
 治療方針や薬剤・病状など主治医や医療機関、調剤薬局などと連絡を密にとり、正確な情報をもとにケアにあたるように努めた。
2. 24時間365日安心して過ごすための利用者・介護者支援  
 利用者・介護者の心身の状態把握に努め、安心して過ごすことができるように主治医やケアマネジャーと連携し、訪問日以外の時間特に夜間帯を安心して過ごせるように、予測される病状の変化や心身の状況についてアドバイスを行った。  
 終末期や緊急対応を必要とする利用者・介護者に対して、24時間電話相談に対応するとともに、必要に応じ臨時に自宅訪問を行った。
3. 専門的な知識・技術・倫理の向上  
 より良いサービスを提供するために、朝夕のミーティングやカンファレンスにおいて、疾患や病状の経過、処置の方法、支援内容やアプローチ方法を確認した。  
 利用者・介護者のニーズ・意向をスタッフ間で共有するための勉強会を、月1回以上行った。  
 自宅で看取りをした利用者の主治医や他事業所のケアマネジャーなど多職種が集まり、看取りの振り返りカンファレンスを開催した。

### 事業実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延べ利用人数	349	334	322	330	321	287	352	328	346	337	327	304	3937	328.1
一月当たり利用人員	48	46	47	46	46	44	50	56	57	55	56	57	608	50.7
一日当たり利用人数	11.6	10.8	10.7	10.6	10.4	9.6	11.4	10.9	11.2	10.9	11.3	9.8	-	10.8

定期巡回・ 随時対応 型訪問介 護看護件 数	0	0	0	0	3	3	4	5	6	6	5	4	36	3.0
自宅での 看取り件 数	1	0	0	0	1	0	1	0	2	2	0	1	8	0.7

平成 30 年度 平均延べ利用人数 347.1

平成 30 年度 平均一月当たり利用人数 35.8 名

## 同和園居宅介護支援事業所 百々居宅介護支援事業所

### 1. 災害時対策

災害対応班を設置し、災害発生時のケアマネジャーの役割について検討し、地震や水害などの各災害における災害マニュアル、利用者の安否確認リスト、避難場所一覧等を作成した。

### 2. 同和園居宅と百々居宅の支援実施地域の分担の明確化

支援実施地域について、山科エリアを百々居宅に、醍醐エリアを同和園居宅にする分担の明確化について、特養への一時勤務や人事異動の影響もあり、明確に分担することができなかった。

別エリアの新規ケースについて相談を受けた場合に、別エリアで受け入れを行えるよう協議することができた。

### 3. 自立支援に向けたケアマネジメントの取り組み

アセスメント班を設置し、ICFを用いた新たなアセスメントシートを作成し、自立支援に向けたケアプランの作成に有用か検証を行った。

### 4. 他法人や他事業所との連携強化

醍醐、山科の各事業所連絡会への参加、市老協居宅支援部会、山科・醍醐主任ケアマネネットワーク、京都府介護支援専門員会へ参加し、また他事業所のケアマネジャーと情報交換することができた。

地域包括支援センターが主体となっている他法人との事例検討会に参加し、同和園・百々居宅介護支援事業所から事例提供を行った。

障害支援センターと事業所単位で合同研修などを実施することはできなかったが、個々のケースで連携を図ることができた。

### 5. 地域支援の取り組み



地域包括ケア委員会、まちかどステーションで実施している地域支援に協力するとともに、北醍醐マルシェの利用者にも参加していただき、自立支援に繋げることができた。

やましな認知症サポートネットワークに百々居宅介護支援事業所がコア事業所として参加し、地域包括支援センターと共に認知症相談窓口研修会を実施した。

### 事業実績 同和園居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理件数	244	239	241	214	213	218	216	216	218	211	214	216	2660	221.7
受託件数	36	35	33	32	30	32	30	29	31	31	33	33	385	32.1
合計件数	280	274	274	256	243	250	246	245	249	242	247	249	3045	253.8

平成30年度 月平均合計件数 280.9件

### 事業実績 百々居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理件数	108	108	103	138	136	137	142	144	148	146	145	152	1607	133.9
受託件数	3	3	3	3	4	6	6	6	6	6	6	7	59	4.9
合計件数	111	111	106	141	140	143	148	150	154	152	151	159	1666	138.8

平成30年度 月平均合計件数 113.6件

## 配食サービス

### 1. 配食数の推移

配食数は昨年度に比べて増加し、夕食のニーズが高くなっている。令和元年11月より原材料の価格高騰により利用料金を20円値上げし650円としたが利用人数に変化はなかった。

### 2. 献立の内容

献立内容や味付け、硬さ等、必要に応じて栄養士と相談し、利用者のニーズに合わせた献立作りを行った。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、デイサービスを休まれる利用者の臨時利用に対応した。

### 3. 安否確認機能

利用者へ手渡すことで、安否確認機能を継続した。利用者のサービス担当者会

議に参加し、利用者に確実に配達できる方法を担当ケアマネジャーやサービス事業所と必要に応じ検討した。

### 事業実績（配食数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
配食数	556	593	612	657	636	638	669	642	705	689	610	641	7648	637.3
内、昼食数	167	174	189	217	205	198	208	191	223	222	190	172	2356	196.3
内、夕食数	389	419	423	440	431	440	461	451	482	467	420	469	5292	441.0
一月当たり 利用人員	32	33	35	34	35	39	41	40	40	37	35	32	433	36.1

平成 30 年度 平均配食数 611.0 食

平成 30 年度 平均昼食数 223.8 食

平成 30 年度 平均夕食数 387.2 食

平成 30 年度 平均一月当たり利用人数 34.1 名

## 【 京都市醍醐北部地域包括支援センター 】

### 1. 地域支援

#### 地域ケア会議

日常生活圏域の地域ケア会議の開催するとともに、学区地域ケア会議は民生児童委員と合同で開催し独居高齢者に関する情報の共有を行った。個別事例を扱った地域ケア会議の開催回数は増加した。

- ・個別地域ケア会議：6回
- ・日常生活圏域地域ケア会議：各圏域それぞれ1回（計2回）
- ・学区地域ケア会議：各学区それぞれ1回（計5回）

学区民生児童委員協議会と会議を通じて意見交換を行った。

#### ・学区民協への会議参加回数

北醍醐	醍醐	醍醐西	池田	池田東
1 2	1	1	0	5

### 2. 介護予防

住民主体の介護予防事業を側面的に支援することができた。

### 3. 認知症支援

小中学校の生徒に対しての認知症サポーター養成講座の開催、通所介護事業所と協働で開催の講座を定例化することができた。

- ・認知症サポーター養成講座受講者：156名

- ・認知症サポーター養成講座開催回数：7回

GPS端末を使用した認知症行方不明者の捜索・声掛け訓練を、地域の事業所の参加を募って実施することができた。

カフェ de おれんじサロンに参画し、初期認知症の当事者支援を行った。

#### 4. 権利擁護

山科区と醍醐地域権利擁護ネットワークを形成し、「虐待」「消費者被害」

「意思決定支援」について他団体と協働で研修会を企画し開催した。

日常生活圏域の居宅介護支援事業所に対し、虐待の早期発見や通報対応について研修を実施した。

#### 5. 他機関との連携

醍醐北部圏域の居宅介護支援事業所と事例研究会を1回、交流会を1回開催し、ケアマネジャーの横のつながりの強化を図った。

支え合い活動創出コーディネーター・南部包括と定期的に醍醐地域における支援のあり方について協議した。また在宅医療介護連携推進センターの会議に出席し医師会と定期的に意見交換する中で、利用者の緊急時の情報共有シートを作成する等協働することができた。

### 事業実績

#### 総合相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	412	424	439	412	428	435	433	450	432	444	434	453	5196	433

平成30年度平均件数 408件

#### 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント給付管理件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	356	363	372	378	372	375	376	387	386	388	381	379	4513	376.1
うち委託	83	84	89	89	85	84	86	95	96	94	95	99	1079	90.0

平成30年度 平均件数 340件（うち委託77件）

#### 1人暮らし高齢者全戸訪問事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
訪問件数	0	32	38	21	15	39	42	34	45	15	28	29	338	28.2
同意書数	0	1	2	2	0	1	0	2	1	0	0	0	9	-

平成30年度 合計訪問件数 316件（同意書数 19件）

虐待相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	5	10	1	1	1	4	2	1	1	5	3	4	38	3.2

平成 30 年度 合計相談件数 46 件

ケアマネ支援件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	0	0	2	0	1	3	0	5	0	1	3	2	17	1.4

平成 30 年度 合計相談件数 20 件

地域支援行事

行事名（回数）	開催趣旨
MOMO テラスいきいき応援広場（4回）	包括啓発活動・介護予防普及啓発・多世代交流・多業種交流（醍醐北部・醍醐南部・桃山包括合同）
元気はつらつフェスティバル（1回）	介護予防普及啓発
京都サンガ健康アカデミー（1回）	介護予防普及啓発・他業種交流

## 【コミュニティカフェ】

コミュニティカフェ「倶会一処」

コミュニティカフェ工房「ひのぼっこ」

### 1. コミュニティカフェの機能

地域の方や入居者の活動の低下の改善、予防の視点で利用できる場である「うたごえカフェ」、「趣味教室」等を実施した。

健康や医療・介護を考える講座や地域ケアセミナーの会場として活用した。敬老模擬店、地域ケア委員会主催のフリーマーケットへの参加、地域のデイサービスの利用者や職員の方が気軽に立ち寄れる「カフェレク」に取り組んだ。

地域の方が作られた手作り品や授産施設で作られた品物の展示、販売コーナーの充実を図ることができた。

### 2. 売店機能の強化

地域の方や施設を利用されている方などのニーズに応え、日用品等を中心としたアイテムの充実を図った。

## コミュニティカフェ工房 ひのぼっこ

### 月別売上高

(単位:千円)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
デイ委託	333	364	344	356	342	274	362	364	344	419	405	468	4375	364.6
カフェ	401	257	301	281	233	231	237	262	291	189	334	182	3199	266.6
合計	734	621	645	637	575	505	599	626	635	608	739	650	7574	631.2

## コミュニティカフェ「倶会一処」

### 月別売上高

(単位:千円)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
売上高	1419	1430	1412	1637	1491	1275	1284	1342	1316	1226	1220	1260	16312	1359.3

## 【 法人本部 】

1. 会計監査人導入による会計基準等に準拠した会計処理を実施したことにより、更に事業運営の透明性、ガバナンスの向上を図ることができた。
2. 沖縄県等の学生に対する採用活動を積極的に進め、令和2年4月には15名の新入職員を迎えることができ、また令和2年2月には初めてとなる技能実習生5名を中国から受け入れることができた。
3. 100周年記念誌及び令和3年12月11日の記念事業に向けて、100年委員会において検討を進めた。

## 人事部

### 1. 人員確保のための取り組み

令和2年4月新規採用者は中途採用者を含めて15名となり、また中国から技能実習生5名を受け入れることができ、目標に近い人員を確保することができた。

インターンシップについて、大学生に限らず高校生も施設で介護が体験できるよう機会を作り、また高校生を対象に福祉への興味、関心を持ってもらう

ため、出前就職ガイダンスに介護職員とともに出向き、施設、福祉の魅力を発信することができた

中途採用者やパート職員に対して、ホームページや Facebook 等 SNS を通して、介護職場の魅力を情報発信した。

沖縄県等において求人活動を積極的に行い、学校関係者、学生と信頼関係を構築することに努め、沖縄県から 2 名迎え入れることができた。

施設におけるシーツ交換等の間接業務について、専門業者に業務委託することにより、介護職員の負担軽減に努めた。

## 2. 適正な労務管理の取り組み

時間外勤務等の管理が適正行われるよう、管理職と情報の共有に努めた。

京都府最低賃金の引き上げに伴い基本給の見直しを行った。

介護職員等に対して、特定処遇改善加算の創設に伴い処遇改善手当を新設した。

年次有給休暇について、計画書の個別作成により 5 日以上の付与に努めた。

パワーハラスメントに関する規定の施行及び新たな外部相談窓口を設置するなど職員がより相談し易い体制を整備した。

## 3. きょうと福祉人材育成認証制度上位認証法人としての取り組み

平成 28 年 10 月に取得した上位認証について、今までの取組みに対する評価を受け、今後 5 年間の更新が認められた。

## 4. 人事評価制度の再構築

新たな人事評価制度の構築に向けて、人事考課制度の再編に取り組んだ。

# 総務部

## 1. 施設整備

さつき寮 3 階のプライバシー保護のための居室改修工事を、京都市から補助金を得る中で実施することができた。

## 2. 適正な運営管理

品質の良いものをより安く仕入れることができるよう、見積もり合わせを実施するとともに、必要なものについて入札を実施した。

水光熱費削減については予算的に機器導入が難しく実行出来なかった

## 3. 震災対策

水害や土砂災害、地震等を想定した訓練はできなかったが、火災訓練は実施することができた。

### 同和園施設内保育園「ちくりん」実績（定員 6名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
開園日数	30	25	26	28	25	29	26	25	24	27	25	28	318	26.5
最大可能利用園児者数	180	150	156	168	150	174	156	150	144	162	150	168	1908	159
延べ利用園児者数	71	46	41	56	52	64	70	72	60	72	58	64	726	60.5
一日当たり利用園児数	2.4	1.8	1.6	2.0	2.1	2.2	2.7	2.9	2.5	2.7	2.3	2.3	-	2.3
稼働率	39.4	30.7	26.3	33.3	34.7	36.8	25.6	48.0	41.7	44.4	38.7	38.1	-	38.1

平成 30 年度 平均稼働率 70.7%

平成 30 年度 延べ利用園児者数 1457 名（一月当たり平均 121 名）

### 経理部

#### 1. 適正な予算管理

各事業の事業活動の進捗状況を踏まえ、正確な会計処理と予算実績管理を行った。

#### 2. 事業計画に沿った施設整備

施設整備や資産の更新について厳しい収支状況を踏まえ、優先順位を付けて予必要最小限の設備を更新するにとどめた。

施設整備積立金は積み立てることができなかった。

#### 3. 透明性の確保

会計監査人による監査により、更に透明性の確保を図ることができた。

#### 4. 施設整備事業及び資産更新他

さつき寮 3 階多床室のプライバシー保護のための居室改修工事  
（京都市先進的補助金事業）

厨房設備機器の一部更新

車椅子、ベッド等介護機器の取得更新

外国人技能実習生等の確保に係る費用負担並びに奨学金規程に基づく修学支援制度の実施

以上